

2年生の1学期の算数の学習に「水のかさ」という内容があります。

L、dL、mL という
単位をここで初めて学習します。

この時期の子どもたちに
1L マスや1dL マスを見せて
(教科書やテキストの図を見ながら)

「1Lは何dLですか？」
と聞いても、子どもたちには？と
なることが多いのです。

そこで、本校にたくさんある
水のかさを量る教具の中から、
1dL マスを使って
いろいろな容器に
何dLの水が入るか
自分たちで確かめる活動を行いました。



子どもたちは、自分の調べてみたい
容器を
選んで慎重に水を入れて調べてい
きます

調べて分かったことは
ワークシートに記入します。



すると、たくさんある容器の中から、
1dL マス 10 杯分の容器(1L マス)
が
見付き始めます。

先生、1dL10杯でぴったりになる
マスがありました！

その言葉を拾い
本当にそうなるか
みんなで確かめていきます。

子どもたちが自分たちで発見したこと
とは

実感を持った理解につながります。

本当にそうなるのか
もう一度確かめたいくなります。
同じような大きさの容器も
そうなるのではないかと予想し
実験してみたいくなります



そこで
1dL が 10 杯分で
1L マスがいっぱいになる。
 $10\text{dL} = 1\text{L}$ $1\text{L} = 10\text{dL}$
と納得できるのです

自分たちの手で確かめたいくなる課題が

ある
そのため材料や道具がたくさん
ある
調べる時間やスペースがたっぷり
ある。

このような活動をたっぷりを行い、
学年ごとに積み重ねていくと
量感を伴った理解を得ていきます。
自らの力で、概念をつかむ子どもに
成長していきます



これがオーブンプランの算数を
担当する教師が大切にしていること
です。

